

■2014年関西大学対抗テニスリーグ戦<男子1部リーグ(9/7~9/14)> 3位 3勝2敗

	同大	関大	近大	甲南大	関学大	立命大	
同大	*	1-8 D 1-2 S 0-6	6-3 D 1-2 S 5-1	6-3 D 2-1 S 4-2	4-5 D 2-1 S 2-4	7-2 D 2-1 S 5-1	3位
関大	8-1 D 2-1 S 6-0	*	9-0 D 3-0 S 6-0	9-0 D 3-0 S 6-0	6-3 D 3-0 S 3-3	8-1 D 3-0 S 5-1	優勝
近大	3-6 D 2-1 S 1-5	0-9 D 0-3 S 0-6	*	3-6 D 2-1 S 1-5	5-4 D 3-0 S 2-4	8-1 D 3-0 S 5-1	5位
甲南大	3-6 D 1-2 S 2-4	0-9 D 0-3 S 0-6	6-3 D 1-2 S 5-1	*	3-6 D 0-3 S 3-3	8-1 D 3-0 S 5-1	4位
関学大	5-4 D 1-2 S 4-2	3-6 D 0-3 S 3-3	4-5 D 0-3 S 4-2	6-3 D 3-0 S 3-3	*	9-0 D 3-0 S 6-0	2位
立命大	2-7 D 1-2 S 1-5	1-8 D 0-3 S 1-5	1-8 D 0-3 S 1-5	1-8 D 0-3 S 1-5	0-9 D 0-3 S 0-6	*	6位

第1戦同志社大学9-0立命館大学

○D1 諫山・飯島	6-2 6-2	上野・畑中
○D2 井筒・倉地	6-4 4-6 6-4	松本・榎本
○D3 石島・前川	6-2 6-1	佐藤・西野
○S1 井筒	6-2 6-2	佐藤
○S2 諫山	3-6 7-6(4) 5-7	畑中
○S3 石島	6-2 6-3	松本
○S4 飯島	6-1 6-3	上野
○S5 佐伯	6-1 6-3	北野
○S6 倉地	6-4 6-2	江連

第2戦同志社大学4-5関西学院大学

○D1 諫山・飯島	6-3 7-6(5)	菊本・日下
○D2 井筒・倉地	6-3 6-3	長南・浮田
×D3 石島・前川	3-6 3-6	牧田・衣川
×S1 井筒	6-3 3-6 2-6	日下
×S2 諫山	2-6 6-4 3-6	菊本
○S3 石島	6-3 6-2	浮田
○S4 飯島	6-4 6-2	中村
×S5 吉川	2-6 3-6	衣川
×S6 倉地	1-6 2-6	坂上

第5戦同志社大学1-8関西大学

×D1 諫山・飯島	3-6 6-2 3-6	中村・矢多
×D2 井筒・倉地	2-6 5-7	森田・池川
○D3 石島・前川	6-4 6-3	細川・加藤
×S1 井筒	3-6 4-6	中村
×S2 諫山	1-6 4-6	森田
×S3 石島	2-6 6-7(5)	染矢
×S4 飯島	1-6 1-6	竹元
×S5 佐伯	3-6 0-6	加藤
×S6 吉川	3-6 0-6	矢多

第4戦同志社大学6-3近畿大学

×D1 諫山・飯島	7-5 6-7(6) 6-7(3)	重山・高木
○D2 井筒・倉地	4-6 6-4 6-3	高橋・谷口
×D3 石島・前川	4-6 3-6	上杉・土井
○S1 井筒	6-3 6-4	上杉
○S2 諫山	6-4 2-6 6-4	土井
○S3 石島	6-7(4) 6-3 6-3	高橋
○S4 飯島	2-6 6-3 7-6(4)	高木
○S5 佐伯	6-7(4) 6-3 6-3	西川
×S6 吉川	4-6 4-6	谷口

【男子チームの戦い】

9月7日から14日にかけて江坂テニスセンター(大阪府)にて行われた関西大学対抗テニスリーグ戦男子1部。同志社は3勝2敗で1部3位となり、1部残留が決定したが、目標としていた王座進出はならなかった。

昨年、22年ぶりに関西リーグを制覇し、今年は連覇そして王座出場を目標としていた男子。しかし、けが人のためベストのオーダーではなかった。それでも「選手も応援も一緒にみんなで勝つ」(宇治主将・商4)。一致団結してリーグに挑んだ。

初戦は立命と対戦。ダブルスで井筒・倉地(商3)組、シングルスで諫山が接戦の末敗れてしまうが、残りはすべてストレート勝ちで強さを見せつけた同志社。7-2で勝利した

第2戦目の対関学戦。「今日勝たないと王座が見えてこない」カギとなる一戦は今大会で一番の山場となった。関学が得意とするダブルスから試合は始まる。諫山・飯島(組は5月の大会で準優勝したペア)と対戦。相手ボレーの厚い壁に阻まれるが、安定した諫

山のストロークと飯島の高さを生かしたボレーでポイントを重ね、接戦を制した。井筒・倉地組も厳しいコースにボールを打ち込み、ストレート勝ちを収める。石島・前川組はストレート負けを喫するが、合計 2-1 で同志社が一步リードした。

続くシングルス 3 試合が終了した時点で合計 3-3 と競り合い、勝利には最低でもあと 2 試合を取らなければならない。飯島がチャンスを実に決め、落ち着いたプレーでまずは 1 勝。諫山は最終セットまでもつれ込むが、惜しくも敗れる。勝負の行方は井筒の試合に託された。長いラリーが続き、辛抱強くボールを追う。チャンスを実に決め、第 1 セットを先取。第 2 セットも井筒のペースで試合が進み 3 ゲームを連取する。しかし、連日の試合が影響したのだろうか。ゲームカウント 3-1 でリードしていたところで足がつるアクシデント。応急処置が施され、試合を続けたが、ゲームカウント 3-6 でこのセットを落としてしまう。「負けたらチームも負ける。足がつったからといって負けるわけにはいかなかった」(井筒)。チームの勝利のために自分を奮い立たせ、最終第 3 セットを迎えた。これまでとは見違えるような動きで粘り強くラリーを続ける。大きな応援もプレーを後押しした。しかし、次第に井筒のミスが増え、ゲームカウント 2-6 で試合終了。対関学戦は合計 4-5 で惜しくも敗れた。「ダブルスが 3 つ取れていればよかった。何事にもあと一步」(石島)と悔しさの残った大事な一戦。しかし、王座への道が途切れたわけではない。切り替えて目の前の一戦一戦に集中した。

第 3 戦は甲南大と対戦。ダブルス 1 本、シングルス 2 本を落としてしまうが、残りをきっちり抑え込み、6-3 で同志社が勝利した。第 4 戦目の対近大戦。ダブルスでは諫山・飯島組が 4 時間の熱戦に敗れるなど合計 1-2 でリードを許す。シングルスでもほとんどの試合がフルセットにもつれ込む大接戦となったが、最後まで集中力を切らさず勝利をもぎ取った同志社。シングルスで 5 勝を挙げ、6-3 で勝利した。

いよいよ迎えた最終戦。相手はここまで全勝中の関大だ。上位 2 チームが王座の切符を得られるため、この試合に勝てば同志社の王座進出が決まる。心を一つに大一番に臨んだ。ダブルスから試合は始まり、石島・前川組がテンポよくポイントを重ねてまずは 1 勝。井筒・倉地組、諫山・飯島組は善戦したが敗れ、1-2 と先行される。ばん回したいシングルス。だが、相手は強かった。「相手の球が良くて自信を持って攻めることができなかった」(井筒)と完全にペースを握られる。また「絶対に勝たないと、と意識しすぎた」(飯島)。王座進出へのプレッシャーで自分のプレーができない。冷静に試合を進められないまま、シングルスはすべての試合でストレート負け。対関大戦は 1-8 と完敗した。

これにより、リーグ通算成績は 3 勝 2 敗となった。勝敗数は関学と同率であったが、直接対決で同志社が敗れていたため関学の 2 位が決定。同志社は 3 位となり、惜しくも王座進出を逃した。

2 位の関学と勝敗数が同じであっただけに、「関学戦であと一つ勝てていれば」(宇治)と悔む。しかし、ベストなオーダーでない中で王座まであと一步のところまで迫った。新戦力の活躍は同志社の選手層の厚さを示したはずだ。また、チームを背負って連戦を戦い抜いてきたことで自信がついた選手も多い。4 年生はこれで引退となるが、「3 年生がチームを引っ張ってくれた。信頼している」(宇治)と来年への期待も大きい。1 部に残れたことで、来年も王座への挑戦は続く。また 1 年、個人の鍛錬の期間となるが、一人ひとりが成長した姿を、来年は王座で見せてほしい。(記事提供：同志社スポーツアトム 菅原実希)

2014年関西大学対抗テニスリーグ戦<女子1部リーグ(9/7~9/14)> 6位 0勝5敗

	関学大	関大	園女大	同大	親女大	大教大	
関学大	*	3-2 D 2-0 S 1-2	4-1 D 2-0 S 2-1	3-2 D 2-0 S 1-2	3-2 D 2-0 S 1-2	5-0 D 2-0 S 3-0	優勝
関大	2-3 D 0-2 S 2-1	*	2-3 D 1-1 S 1-2	4-1 D 2-0 S 2-1	3-2 D 1-1 S 2-1	5-0 D 2-0 S 3-0	2位
園女大	1-4 D 0-2 S 1-2	3-2 D 1-1 S 2-1	*	3-2 D 2-0 S 1-2	2-3 D 0-2 S 2-1	5-0 D 2-0 S 3-0	3位
同大	2-3 D 0-2 S 2-1	1-4 D 0-2 S 1-2	2-3 D 0-2 S 2-1	*	2-3 D 1-1 S 1-2	2-3 D 0-2 S 2-1	6位
親女大	2-3 D 0-2 S 2-1	2-3 D 1-1 S 1-2	3-2 D 2-0 S 1-2	3-2 D 1-1 S 2-1	*	4-1 D 2-0 S 2-1	4位
大教大	0-5 D 0-2 S 0-3	0-5 D 0-2 S 0-3	0-5 D 0-2 S 0-3	3-2 D 2-0 S 1-2	1-4 D 0-2 S 1-2	*	5位

第1戦 同志社大学 2-3 園田学園女子大学

× D1 北川・玄田	7-6 (5) 1-6 6-7 (5)	加治・池田
× D2 竹島・中田	6-2 3-6 2-6	桐畑・足立
× S1 北川	4-6 2-6	加治
○ S2 玄田	6-3 6-3	大石
○ S3 阪上	6-4 6-4	桐畑

第2戦 同志社大学 1-4 関西大学

× D1 北川・玄田	6-4 4-6 2-6	畑守・田尻
× D2 竹島・中田	4-6 3-6	大西・寺島
× S1 北川	1-6 1-6	畑守
○ S2 玄田	6-3 4-6 6-4	筒井
× S3 阪上	1-6 4-6	寺島

第3戦 同志社大学 2-3 関西学院大学

× D1 竹島・中田	2-6 3-6	田中・村上
× D2 本田・玄田	2-6 3-6	伊藤・酒井
○ S1 北川	6-2 3-6 7-5	宇佐美
○ S2 玄田	6-1 6-4	伊藤
× S3 阪上	1-6 4-6	田中

第4戦 同志社大学 2-3 神戸親和女子大学

× D1 竹島・中田	2-6 3-6	丹野・清水
○ D2 本田・玄田	7-5 6-7 (3) 6-3	円本・大嶋
× S1 北川	6-7 (5) 0-6	丹野
○ S2 玄田	6-4 3-2 RET	円本
× S3 阪上	5-7 0-6	清水

第5戦 同志社大学 2-3 大阪教育大学

× D1 竹島・中田	5-7 1-6	藤原・丸山
× D2 本田・玄田	2-6 5-7 (3)	田中・加藤
○ S1 玄田	6-2 6-1	長妻
○ S2 阪上	6-2 5-7 7-6 (4)	大田黒
× S3 林	6-7 (4) 2-6	田中

## 【女子チームの戦い】

9月7日から14日にかけて江坂テニスセンター(大阪府)にて行われた関西大学対抗テニスリーグ戦女子1部。同志社は0勝5敗で1部6位となり、2部1位の関西外大との入れ替え戦に進む。

昨年は1部4位と王座進出を逃し、今年こそ目指していた王座。「部員全員が一丸となって勝利をつかみに行く」(竹島主将)。チャレンジの気持ちでリーグ戦に臨んだ。

第1戦は園田学女大との対戦。始めに行われたダブルス2試合とも、接戦を繰り広げる。北川・玄田組は第1、第3セットがタイブレイクにもつれ込んだ。北川の正確なストロークで相手を崩し、玄田のコースを突くボレーでポイントを重ねていく。しかし、相手も勝負強い。チャンスを逃さず決められ惜しくも敗れた。竹島・中田組もフルセットの末敗れてしまい、0-2と後がない状況となった。続くシングルスにリーグ戦初出場の阪上が入る。勝ちへのプレッシャーがかかるが、「自分がミスしなければ相手がミスしてくれる」(阪上)と冷静に相手を分析し、試合を進める。ポイントの取り合いとなった場面でも応援を力に変えて、相手を振り払った。ストレート勝ちを収め、1勝をもたらす。玄田も安定したプレーで勝利し、ついに2-2で並んだ。勝負の行方は北川の試合にかかる。しかし、足の状態が良くなかった北川。自分の思うようなプレーが出来ず敗北。2-3と一歩及ばず初戦を落とした。

王座進出へ、切り替えて勝ちを重ねていきたいところだったが、第2戦目の対関大戦、第3戦目の対関学戦も敗れてしまう。さらに北川の足の状態が悪化し、急きょ関学戦からダブルスのオーダーを変更。万全のチーム状況でない中、残りの2戦は絶対に負けることはできなかった。

迎えた第4戦目の対神戸親和女大戦。これまでの敗因に「ダブルスを取れず0-2でシングルスに回していたこと」(竹島)を挙げていただけに、ダブルスは鬼門だった。しかし、急きょオーダー変更した本田(法3)・玄田組が健闘する。第1セットを接戦の末先取。第2セットはタイブレイクにもつれ込み、惜しくも落としてしまう。最終第3セット。長時間の戦いとなったが、二人の動きはさらに良くなっていく。ストロークは果敢にライン際を攻め、ボレーは粘り強く耐えた。「声を出して最後まで元気にできた」(玄田)と笑顔を絶やさずプレーした二人。ダブルスで1勝を挙げる。これまでとは違う流れに乗っていききたいシングルス。序盤は五角の戦いとなる。しかし、要所を突かれて北川、阪上と敗北。合計2-3で第4戦も落としてしまった。

この結果2部との入れ替え戦が決定。1部残留のためには最終戦を勝ち、2部2位と対戦したいところだ。最終戦はここまで全敗と同志社と同じ状況の大教大との一戦。課題のダブルスから始まる。竹島・中田組はテンポよくポイントを重ね、流れをつかむ。しかし、「ここというときに相手の方が強気だった」(竹島)と次第に相手に迫られ敗北。本田・玄田組も「最後の詰めが甘かった」(玄田)と競り負け、またしても0-2とリードを許す。シングルスで阪上、玄田が勝利するが、林(スポ2)が敗れ、合計2-3で最終戦を終えた。

リーグ戦で1勝も挙げることができず、1部残留も怪しくなってしまった。しかし、「これよりも下はない。どん底からは上がるしかない」(阪上)ともう上を向いて進んでいる。2部で戦った経験があるのは4年生だけだ。「2部のしんどさを経験してほしい」(阪上)と後輩たちへの思いもある。課題のダブルスを強化して大一番に臨む。(記事提供：同志社スポーツアトム菅原実希)

### 【速報】関西リーグ女子1-2部入れ替え戦に勝利し、1部残留が決定！

2014年10月11日、1部-2部入れ替え戦に臨んだ女子チームは、2部1位関西外国語大学と対戦、3-2で下し、辛勝した。ダブルスNO.1北川、玄田は快勝、NO.2竹島、中田は第1セットを先取するもフルセットで惜敗。

シングルスNO.3阪上はストレートで完敗。この時点で1-2と土俵際まで追い込まれたが、北川、玄田両エースの奮闘で、まずは玄田が先勝し2-2のタイ。勝負はNO.1の勝敗に掛かった。北川の相手はインカレ本戦の強敵。2部リーグの関西外大といえども侮れない。北川は順調に第1セット6-1で取るも、終盤から足にケイレンを起し第2セットは5-5ともつれる展開へ。気力を出して最後は粘る相手を7-5で振り切って1部残留を決めた。

北川はリーグ中盤で足に故障して復は戦線を外れることが多かった。幸いにも入れ替え戦まで、日程が空いたことで回復し、入れ替え戦に出場することができた。もしエースが単複とも出場できなければ、結果はどうなっていたかわからない。

これで1部残留が確定し、来年以降、王座挑戦へつなげてくれたことは大きな収穫。選手を誉めてやりたい。